

赤こんりポート

今井良治リポーター



「児童生徒の不登校」をテーマに 市PTA 連合会と補導委員会が 共育連携フォーラム

近江八幡市PTA連合会と近江八幡・竜王少年補導委員会の共催による第21回青少年共育連携フォーラムが11月12日、桐原小体育館で開催され、両団体のメンバーら約130人が参加しました。子どもたちを取り巻くさまざまな課題について学習を深めることが目的。地域の小学生による吹奏楽サークル「安土・老蘇まち協バンド」が元気一杯の演奏を響かせたあと、滋賀県教育委員会幼小中教育課の竹中裕貴さんが登壇。全国的に社会問題として注目を集める「児童生徒の不登校」をテーマに、図表などを交えながら国県の動向や要因、未然防止、早期発見・早期対応の重要性などを講演、参加者は熱心に聴き入っていました。

赤こんりポート

東恵子リポーター



花bee講座@岐阜・大垣市の巻

見た目にはわからない、発達障がいや知的障がいの人たち。パニックを起こしたり、奇声をあげることもあり、周囲は「どうしていいかわからない」。そんな人たちへ疑似体験を通して楽しく理解してもらおうと活動している近江八幡市の花beeが、県をまたぎ、11月1日、大垣女子短期大学に招かれ、保育を学ぶ学生ら65人に「体験」してもらいました。「自ら体験することで、当事者の気持ちがわかりました」「声かけが苦手な人もいて、待つことの大事さを知りました」などの感想が寄せられました。

花bee講座の問い合わせは、近江八幡市手をつなぐ育成会のメール omi8kyarabantai@gmail.com まで。

赤こんりポート

松村美沙枝リポーター



子どもの笑顔を守るために 学ぼう「避けるべき子育て」

11月5日、はちはびひろばで「子育てサポーター養成講座 マルトリートメントを学ぼう！」が開催されました。マルトリートメントとは①虐待とは言い切れない、②大人から子どもに対する、③避けたい関わりのことです。「お前なあ」「あんた」「意味わからん」など、一見よくあるコミュニケーションですが、この何気なく人をさげすむ言葉を繰り返し聞き続けることにより、脳に及ぼす影響は身体的虐待より大きいそうです。講師の中島みちるさんは「大切なことは子ども一人の人間としてリスペクトすること。避けるべき内容を認識し、地域全体で子どもの豊かな発育を見守れたら」と話していました。

赤こんりポート

馬場利男リポーター



2学期のあいさつ運動

酷暑の夏休みでしたが、児童たちにとっては思い出に残る休みになったでしょうか。

近江八幡警察署子ども安全リーダー・金田学区（代表・辻正三さん）は、毎月20日前後の登校日の朝、あいさつ運動を小・中学校で実施しています。夏休みが終わって2学期が始まり、児童たちの顔が見られると思っていた9月のあいさつ運動は、台風通過で中止になりました。10月、3か月ぶりに「おはよう」と声をかけると、児童たちからは元気な声や小さな声など、思い思いの声がかえってきました。リーダーの皆さんは児童・生徒が登下校中の事故に遭わないよう、これからも見守り活動を続けられます。

11月6日



市内で2つのバイクイベント 「バイクの神様ミーティング」と「信長バイク武者行列」

まちのコインアプリを見てスタンプラリーで市内を巡る、「バイクの神様ミーティング in 近江八幡」が安土文芸の郷で開催されました。県内外から集まった約500人のバイカーは市内を満喫。会場では白バイ体験、バイク店のブース出展、マルシェなどが開催され、市内の家族連れも楽しみました。

また、甲冑姿のライダーが市内をパレードする「あづち信長バイク武者行列」も同日に開催されました。安土城跡前多目的広場駐車場で行われた出陣式には、31人のライダーが参加。パレードの途中に「ふれあい関所」を設け、甲冑ライダーとの記念撮影会や交通安全啓発を行い、今年38回目を迎えるあづち信長まつりをPRしました。

11月13日



3年ぶり 老若男女が駆け抜ける 2022 水郷の里マラソン

晩秋の水郷を舞台に「2022 水郷の里マラソン」が3年ぶりに市立運動公園（津田町）を発着点に開かれました。2km、3km、5km、10kmの4種目16部門に、小学4年生から81歳の高齢者まで、県内から805人の選手がエントリーし、健脚を競いました。今年で46回目となるこの大会は、参加者の体力に応じて完走することが主な目的で、健康づくりや仲間づくり、高齢者や3世代交流の輪を広げることもつなっています。

午前9時、2km部門を皮切りに、種目ごとに順次スタート。参加者は、沿道の市民や家族らから盛んな拍手を受けながら水郷の風景の中を駆け抜けました。

10月16日



西の湖の散策ルートを考える 「水辺のエコロジーフットパス計画 in 西の湖」開催

西の湖の周りを歩き水辺の生態系を観察するイベントが開催され、市内外から10人が参加しました。

この取り組みは、県がきれいな琵琶湖を次世代に残すための目標である「マザーレイクゴールズ (MLGs)」を進めるために行っているもの。西の湖の周りを歩き、そこで見つけた自然環境観察の径をもとに、西の湖水辺のエコロジーフットパス計画をつくることを目的としています。

参加者は、ヴォーリズの森環境サポーターズの河合嗣生さんの案内で散策を開始。道中に見つけた植物や昆虫、鳥などの説明を受け、実際に手に取りにおいや感触を確かめたり、写真を撮ったりしながら楽しみました。

10月22日～11月6日



浄厳院で「2022 AT ARTS EXHIBITION」が開催

織田信長が創建した浄厳院（安土町慈恩寺）で、国内外のアーティスト26人が参加する現代美術展が開かれました。美しく荘厳な空間と歴史文化を生かしてアートを発信し、来場者や地域の人たちと交流を深めたいと2020年から開催し、今回が3回目。総勢約200点の作品が、楼門や書院など境内に展示されました。中でも、油彩画を展示するウクライナの MARIA・ルイーザ・フィラトヴァさんは、ロシアが侵攻するまで家族と暮らしていたザポリージャの自宅マンションから見える、守りたいふるさとの風景を描きました。

11月3日は、音楽ユニット「Arts Flying Pan」と舞踏家の桂勘さん、杜登坊さんによる即興パフォーマンスが行われ、音と身体表現がシンクロする緊張感あるパフォーマンスに、来場者は息を飲んで見入っていました。